

鮮なようで何か懐かしい気持ち^{ていぼう}がした。堤防
の階段に座ると、遠くの水平線^{すいへいせん}を眺め、ゆっ
たりと体を揺^ゆらした。

ポイプビーチには観光客がほとんどいな
い。雲一つない青空は眩^{まぶ}しく輝き、遠くの海
と空の境目^{さかいめ}は消え、白い雲と波の区別もつか
なかった。目の前には金色^{きんいろ}の光る砂浜^{すなはま}があり、
絵のように美しい景色が広がっていた。都会^{とかい}
の喧噪^{けんそう}から逃^{のが}れたこの小さな町で、セレナは
今までに感じたことのない穏^{おだ}やかで幸せな気
持ちになり、静かに目を閉じた。

突然、翡翠^{ひすい}の擦^すれ合^あう音^{ひび}が響^{ひび}き、セレナは我^{われ}
に返^{みおぼ}った。見覚えのある翡翠^{ひすい}と見覚えのある